

教育方法の現代化

体的なイメージとしてとらえ、その功罪をじっくり考 えてみなくてはならない。

表1：視聴覚教材整備基準

小学校：

品目種別	5以下級	6級	13級	19級	25級	31以上級
紙芝居舞台	1	1	2	2	3	3
スライド映写機	1	2	3	3	4	4
8mm映写機	1	1	1	1	1	1
8mm撮影機	1	1	1	1	1	1
16mm映写機	1	1	1	1	1	1
オーバーヘッドプロジェクター	1	1	1	1	1	1
実物幻灯機			1	1	1	1
映写幕	2	3	4	4	5	5
ポータブル電蓄	1	2	2	3	4	4
録音機	2	3	4	5	6	6
テレビ受像機(親)	1	1	1	1	1	1
テレビ受像機(子)		1	2	3	4	5
携帯用拡声機	1	2	3	3	4	4
カメラ	1	1	1	1	1	1
ラジオ受信機	5	12	18	24	30	36
放送設備一式	1	1	1	1	1	1
スライド	150(組)	150(組)	150(組)	150(組)	150(組)	150(組)
レコード	60	60	60	60	60	60

中学校：

品目種別	5以下級	6級	10級	16級	22級	28以上級
スライド映写機	1	2	3	3	4	4
8mm映写機	1	1	1	1	1	1
8mm撮影機	1	1	1	1	1	1
16mm映写機		1	1	1	1	1
オーバーヘッドプロジェクター	1	1	1	1	1	1
実物幻灯機		1	1	1	1	1
映写幕	2	3	4	4	5	5
録音機	2	3	4	5	6	6
ポータブル電蓄	1	2	2	3	4	4
テレビ受像機(親)	1	1	1	1	1	1
テレビ受像機(子)	1	2	4	6	8	10
携帯用拡声機	2	3	3	3	4	4
カメラ	1	1	1	1	1	1
ラジオ受信機	5	9	15	21	27	33
放送設備一式	1	1	1	1	1	1
スライド	170(組)	170(組)	170(組)	170(組)	170(組)	170(組)
レコード	170	170	310	310	335	335

Ⅵ 視聴覚教育と入試

杉浦晴彦

視聴覚教育の発展を妨げている今一つの原因として、受験勉強体制との対立という深刻なものが考えられる。様々な視聴覚教育機材を使って面白く分かりやすい授業展開をしようとしても果して教科書に盛られた内容を全部時間内に消化できるであろうかという「不安」を教師も生徒も持つのである。この「不安」は云うまでもなく「受験」に対する不安なのである。現在の授業内容は何らかの形で入試問題にひきずられているのが実状であるからである。特にいわゆる進学校や進学クラスにおいてはいちじるしいものがある。入試をめざすには視聴覚教育機材を駆使した、面白く丁寧な分かりやすい授業展開をすることは「ムダ」があまりにも多いことになってしまう。むずかしくても、面白くなくても入試問題直結の授業展開をした方が無難で不安はなくより現実にマッチしたものになるのである。むろんこのことは視聴覚教育機材を使った分かりやすい授業を必要とする多数の生徒が犠牲になっている

ことは云うまでもない。LLを導入したある高等学校では教師自身が従来の受験英語を反省し、真の英語教育の実践をLLを通じて行なおうとしたら生徒の方からLLよりも問題集をやってくれと云われてしまったという現実が何よりもこの悩みの深刻さを物語っているように思われる。

要するにいわゆる進学校や進学クラスは視聴覚教育に対してあまり熱心ではないということが一般にいわれているが、これらの学校やクラスで視聴覚教育がおざなりにされている理由(原因)を今一度考えてみると

1. 教科の内容を十分に消化出来ないという不安、即ち「時間のむだ」といったもの。
2. 現在の入試問題は特に視聴覚教育機材を使わなければ解けないという問題ではないということ、即ち黒板とチョークそして問題集で十分であるという入試問題。
3. 準備の手数・時間(教師の負担)、機器教材等の不備、機器に対する教師の無知など。
4. 現在の入試体制に対する教師の意識、そして生徒・父兄の意識(基本・原理などはとにかく、要

は大学に入れてしまえばよい、入れればよいという意識)

以上のことなどが考えられるが、とくにここでは2のことについて多少考えてみたい。即ち大学入試問題というものは黒板とチョーク、そして問題集できたえ上げれば十分なのであろうか。視聴覚教育機材を使用した方がより有利な問題はないであろうか……という観点でもって東海地方の主な大学の過去5年間の入試問題を検討してみたが、視聴覚教育機材を使用した方がより解きやすいといった問題は見当たらないというのが実状である。ただ45年度においては東京の一部の大学において英語の書き取り、聞き取りなどの聴取力テストが実施されている。この点から考えてみるとLL装置などは先ず受験体制において必要な視聴覚機器として浮かび上がってくるものと考えられるが、しかし一方、一般の大多数の大学は校内一斉放送設備すら持っ

ていないというのが現実なので視聴覚機材が入試体制の中で重視されるのはまだまだ先のことであると考えざるを得ないのである。さらに最近の入試問題について云えることは「思考の過程」を重視した問題が目立ってふえているということである。ある受験参考書企業の調査のデータによると45年度の大学入試問題は

思考力をためす問題……………70%

知識を調べる問題……………30%

となって来ている。そこで視聴覚教育は思考力を養成するのに非常に適したものであるのか、あるいは全くその逆なのであろうかということ……。これらはむしろ視聴覚教育機材の取り入れ方、使い方といった問題ともからんでくると思われるが……受験体制が視聴覚教育に与える影響はこんなところにも考えられると思われる。